

町長と語る

トーク広場

第52回

葉山の魅力、再発見しませんか？

～4月11日(土)、初の景観調査を実施～



の中の景観まちづくり委員会や地元で景観調査に関わってきたメンバーが中心になり、昨年末に誕生したのが葉山景観調査団です。

町長 今後はどんな活動を？

杉浦 活動は町内を歩いて景観スポットを探す「フィールドワーク」と、その結果をまとめる「ワークショップ」の二つがあります。

フィールドワークでは町内を九地区に分け、月に一回、一地区ずつ調査して歩きます。それを今月から年内いっぱいかけてやり、年が明けてからまとめる作業に入ります。

町長 月一回のフィールドワークは、誰が参加してもいいのですか。

茂木 小さいお子さんからお年寄りまで、葉山とその景観を愛する方などなたでも参加できます。町民でなくても構いません。

町長 それはいいですね。昔、先代の田中町長の時代に、町内のお寺などをめぐる歴史ツアーがあり、それに参加したことがあります。町長自らがガイド役を務めたツアーは、大変に盛況で、楽しかったうえに、とても勉強になりました。

その時のツアーのように、今回もたくさんの方が参加し、景観調査団の活動が盛り上がると思います。

矢部 きつとそうなると思います。実は、私は三年前に葉山に転居してきたのですが、すっかり葉山の景観のとりこになってしまいました。

越して来る前は、葉山は海だけの町というイメージが強かったのに、田んぼや畑、それに緑豊かな里山、古い別荘や民家があることを知ってびっくり。今回の調査活動でも、どんな素敵な景観に出合えるかと、今からワクワクしています。

茂木 葉山には、シラスやマーマレードなど、おいしい海の幸・山の幸もあります。今回の調査では、景観だけでなく、葉山らしい名産・特産品などもどんどん発掘したいですね。

町長 葉山の魅力、再発見ですね。今、町では地元産の野菜や水産物などを地元で消費する「地産地消」事業に力を入れています。

景観調査団の活動が、地元を見直すきっかけとなり、「地産地消」の輪が大きく広がると嬉しいですね。

杉浦 景観調査団は、十二月まで九回のフィールドワークを経て、来年三月には調査結果をまとめる予定です。その成果をぜひまちづくりに有効に活用してほしいですね。

町長 分かりました。まずは調査結果を拝見した上で、現在策定中の景観計画の中にどのように反映できるか検討したいと思います。さて、一回フィールドワークの実施日は？

茂木 四月十一日(土)。上山口地区を歩きます。町長もご参加いただけますか。

町長 もちろんです。一緒に葉山の魅力再発見ツアーを楽しみましょう。

豊かな自然に恵まれ、文化や歴史が息づくまち葉山。そんな町内をめぐり歩き、素晴らしい景観スポットを探して、今後の町づくり計画に生かそうと、葉山景観調査団が発足。今月から本格的に調査を行うフィールドワークがスタートします。

「多くの町民に参加していただきたい、葉山の魅力を再発見したい」と語る代表の杉浦敬彦さん、副代表の茂木節子さん、団員の矢部史子さんに、活動のねらいや抱負などを伺いました。

町長 先月初めの試験調査には私も参加して、上山口の棚田などを見て回りました。あいにくの雨でした

が、雨に煙る棚田も風情があり、なかなかいいものでした。

矢部 棚田は、朝日新聞社などが実施した「にほんの里一〇〇選」にも選ばれています。葉山の里山を代表する素晴らしい景観だと思います。

町長 とここで、景観調査団はどんな団体なのでしょうか。

杉浦 葉山は海と山に囲まれ、豊かな自然が残る景勝の地です。御用邸があり、明治以降は保養の町として、名士の別荘や保養所などが次々と建てられました。

このように歴史や文化に彩られた町の景観を、町民みんなの力で発掘して、守り、残し、町づくりに生かしていこうと、まちづくり町民会議